

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	バンダキッズ元町		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 25日		～ 2025年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・教室が広いので、簡単な運動もしやすく、いくつかに分かれて違った療育が可能。	・運動遊び、机上遊び、工作などお互いに邪魔にならないような配置をして、楽しく過ごせるように心掛けている。	・職員の得意な分野を活かして、それぞれの支援の幅を広げてより療育を充実させていきたい。
2	・障害特性に長けた職員が全職員に定期的に研修等を行い知識、技術を共有している。	・各職員が持っている技術や知識をみんなで共有し合える機会を随時取っている。	・事業内研修の他にも外部の研修への参加も増やしていきたい。
3	・コミュニケーション能力を養う集団活動において、柔軟な療育が行えている。	・児童を飽きさせず、楽しみながらそれぞれのテーマに取り組めるように考えている。	・すべての職員が、状況によってその場で対応を考えて、実施できるようになる事を目標としている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・周りに坂が多く、交通量も多いので、到着時、出発時の車の乗り降りに危険が伴う。	・立地場所が坂の途中で、玄関までに10段ほどの階段がある。	・必ず職員が近くで見守り、職員同士声を掛け合いながら確認している。
2	・教室の広さはあるが、興奮状態になった児童がクールダウンできる個別の部屋がない。	・更衣室兼物置部屋は独立しているが特性が強い児童の居場所となっているため、他の児童のクールダウンに使えない事がある。	・特性が強い児童の居場所を他に作れると、その部屋を有効に使える。
3	・送迎等で事業所内の職員の数が少なくなり、個別支援が予定通り行えない時がある。	・個別支援が必要な児童を含めた集団療育の中で、個別支援を行うなど工夫をしている。	・学習に時間がかかる児童に対して、個別に対応する事が難しくなっているため、保護者と連携を取って学習対応への時間の軽減が必要。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 バンダキッズ 元町

公表日 2026年 2月 25日

利用児童数

29名 2025年12月 28日

回収数 19

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18			1	十分なスペースが保たれている。汗をかけるくらい運動もできるスペースがあって満足している。	広さを活かした療育を考えて、机上遊び、運動遊びなど複数の活動ができるように考えています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19				手厚く見て頂いている。足りないと感じた事はあまりない。	学校へのお迎え時に事業所内の職員数が少なくなるので、その時は安全を第一に考えての対応をしています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18	1			入り口に狭い階段があり、雨天時は滑りやすく洗面、トイレ前に段差がある。入り口から供して全体を見渡せて安心。	階段の上り下りや洗面所に向かう時は必ず職員が見守るようにしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	1			しっかりと奥まで見た事はないが、見える範囲では清潔感を感じる。	室内の広さを活かして、それぞれ落ち着いた過ごしができるように工夫している。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等にに応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	1			毎日よく観察して報告をしてきている。家庭での様子も聞いてくれて専門的なアドバイスも頂いている。	各利用児童の特性を職員で共有して、ご家庭での様子も加味した支援を考えています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18			1	希望に沿うように取り組んでくれて、個人の特性を伸ばす支援をしてきている。	当事業所の支援プログラムをホームページにアップしました。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19				家族が気づかないところまで、書いてくれているのでありがたい。	現場の職員同士での意見交換を随時行い、細かい部分まで職員同士の共有に努めています。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18			1	長期、短期に目標を定めてわかりやすい。社会で自立していくための支援を興味を持って取り組めるように考えてくれている。	ご本人の支援内容に加えてご家族の負担を少しでも軽減し、就労も見据えた支援を提供していきます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18			1	子どもが少しずつ成長しているなど感じられる支援をしてきている。	支援の目標が多いため、優先順位や困り事を把握しにくい。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17			2	個人の状況に合わせたプログラムを考えてくれている。	できるだけみんなが参加できて楽しめるように工夫しています。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1		4	14	子どもからも先生からも話を聞いた事がない。	現在はありませんが、機会があれば参加を検討したいと思います。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19				資料と共に細やかな説明があった。	利用時に説明させて頂いています。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19				計画書を見ながら説明してもらっている。	お仕事でお忙しいご家族の方には、お電話や文書で説明させて頂く事があるが、不明点は連絡いただくようにしている。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	3	3	5	事業所での活動はないが、研修会などの情報提供はしてくれている。	事業所としての研修会はできていないので、一般の研修会などのお知らせを増やしていきたいと思っています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	19				子どもの健康や発達についてよく質問をして頂き、理解してもらえていると思う。休んだ時にも気にかけてくれる。	こちらで気づいた事は保護者の方にお伝えしてご家庭での様子をお聞きするようになっています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16	1		2	こちらが大変な時に面談をして下さり助かりました。専門的な意見や子育ての経験談も勉強になった。	随時見学や面談は受け付けていますので、お気軽にお申し出頂けるように周知していきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19				共感的に支援頂きその後の対応策も一緒に考えてくれた。	各児童の特性などを職員みんなで共有して支援を行うようにしています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	1	1	7	10	仲良くしている子の保護者と話をしてみたい。同じ特性のお子さんとの交流ができればいいなと思います。	全員での会合は難しいと思いますが、個人同士の交流ができるようには考えていきたいと思っています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17			2	サポート体制は充分にできていると思う。相談を申し出ると迅速に対応してくれる。	面談や見学に対しては随時受け入れていますが、気軽にお申し出頂けるようお知らせしていきます。
20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19				配慮されていると思う。どのように子供と接したかななどを詳しく説明してくれる。	それぞれの特性に合わせてその児童がリラックスして伝えられる事を重視しています。	
21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	18			1	豊富な活動内容を予定表やインスタで様子を見る事ができる。	できるだけ活動ごとの様子をインスタグラムで配信し、2か月に一度「バンダっこライフ」をお配りしています。	

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19			気をつけて扱われていると思います。毎年インスタなどの顔出しについての確認がある。	個人情報の取り扱いに関しては職員同士での確認を行っています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	1	1	避難訓練等の実施報告をしてくれる。マニュアルの内容までは知らないが、ある事は知っている。	マニュアル全部の内容を保護者に周知できていないので周知方法を考えていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19			地震、火災、防犯の訓練のお知らせは頂いている。それぞれの訓練内容も頂いている。	児童も含めた地震、火災、防犯に対する避難訓練や交通安全の訓練を毎年実施している。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18		1	子どもの送り時に見ると気を配っていると思う。	事業所内、送迎時などそれぞれのリスクを想定して日頃から安全に対して職員同士で確認し合っている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	1	2	小さな事故（かすり傷等）でも保護者に連絡を入れてくれる。体調が悪そうな時は伝えてくれる。	事故発生時マニュアルを事業所室内の見えるところに置いて、定期的に確認している。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	18		1	家庭、学校、第3の居場所として安心して過ごせている。	児童たちにとって安心してリラックスできる安全基地としての役割も、果たしていきたいと思います。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	18	1		行き渋りはなく毎回楽しみにしている。特にイベント（集団療育）を楽しみにしている。	事業所の広さや各職員の得意な分野を活かして、みんなが楽しめるアイデアを職員間で話し合っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19			とても満足しています。困った時に相談にも乗ってくれ親子とも助かっています。	今後も児童の支援だけでなく、保護者の皆様が安心できる事業所を目指していきたいと思います。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	パンダキッズ 元町		公表日 2026年 2月 25日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		スペースが保たれているので簡単な運動や机上活動もグループに分かれて行う事ができる。	それぞれの遊びや活動を見守れる職員配置に注意している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		学校へのお迎えが重なると事業所内の人数が減るので、個別の療育等は職員が増えてから行うようにしている。	学校へのお迎えが重なった時に室内の見守りに工夫が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		階段の上り下りや洗面所に向かう時は必ず職員が見守るようにしている。入り口からほぼ全域が見渡せる。	階段が狭いため横に付き添って上り下りができないので声掛けでの見守り、注意喚起を行っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		午前中の時間にトイレ、洗面を始め清掃を毎日している。活動内容によってテーブルの配置を変えて対応している。	不安定になった児童のクールダウンをする場所が定まっていない。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		個室がないので、玩具置き場や相談室を利用している。個別学習用の机を3台用意して対応している。	他の児童の声が聞こえるので、集中しにくい事がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		モニタリング会議の他、気になる事があれば、随時各利用者の対応について話し合っている。	休みの職員もいるので、全員と一緒に参加できる事は少ない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		随時必要な時に職員でミーティングを行っている。送迎時に保護者からのご要望を聞いている。	共有はある程度できているが、定期的に確認をできる機会も作りたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		支援会議以外の時でも気が付く事があれば随時職員で話し合う機会を設けている。	内容によって口頭で個人に指示するか全体での会議で扱うかの判断が難しい時がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	第三者による外部からの評価はうけていない。	状況により第三者による外部評価を受け、今後の業務改善につなげていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		事業所内での研修のほか、外部での研修（WEB研修）があれば実施あるいは通知している。	外部の研修があっても、タイミングが合わず受講できない事が多い。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		公表用の支援プログラムを職員で周知している。	定期的に確認を行う時間を取っていきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		それぞれの児童に対してモニタリング、アセスメントを行い、保護者のニーズも取り入れた計画書になるようにしている。	それぞれの子どもの発達に合わせた計画に時間がかかるので時間の確保が難しい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		個々の児童に対して職員全体の意見を聞いて作成している。	各職員の知識、技量に多少差があるので、同じレベルの支援ができるようにしていきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		支援に関する重要な点は随時確認しながら支援している。	現在の計画書は目標設定の数が多く、必要のない目標も立てざるを得ないため重要な支援目標に集中できていない。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		フォーマルアセスメントを参考に事業所内での様子を含め観察して、様々な観点で確認している。	形式にとらわれず、効果がありそうな事を実施して、その結果により次の支援を考えている。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		職員でモニタリングを行い、ご家族及びご本人の意向を踏まえて計画書を作成している。	各項目ごとに支援計画を立てているが、その児童によって必要のない項目もある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		それぞれ職員が得意な分野を中心に、各児童が課題としている事を話し合っている。	事前にシミュレーションを行い、改善して活動の支援に取り組んでいる。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		一度行ったプログラムでもその反省点から改善策を全員で話し合っている。	年齢の幅が広いので、全員が興味深く活動に参加できていない時もある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		コミュニケーションや、自己の気持ちのコントロールの支援も集団、個別それぞれに合わせて行っている。	個別活動については、職員の数が少ない時があり行えない事がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>		学校へのお迎えの前に全員で行っている。	打合せ当日休みの職員には、連絡ノートで伝えているが十分に伝達できていない時がある。

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		帰りの送迎後で退社時間が迫っている時は、翌日に伝えるか、急を要する時はメールなどで、報告し合っている。	退社時間までの間に共有しきれない事がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用者の毎日の日報は当日、もしくは翌日の出勤後に行っている。	日報用紙で足りない時は、別紙を使って支援・改善につなげる事がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		個々の児童に対して職員全体の意見を聞いて作成している。	基本的に6か月に1度の見直しをしているが長期休みは会議の時間が取りにくい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		地域交流の機会は作れていないが、自立支援、創作活動、余暇の提供においては組み合わせ合わせて支援できている。	機会があれば、地域交流を進めてみたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		遊びの内容、ルールなどを児童の意見からみんなで話し合っ決めて決めるようにしている。	話し合いの時にいなかった児童が納得できない時の対処法。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管が職員の話も聞き取ったうえで参加している。	最も接している職員とともに参加したいが、会議は午後からが多く参加が難しい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療関係はないが、学校や他の事業所とは連携して支援できている。	学校や他の事業所と連携が取れている利用者とそのでない利用者がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校行事等はホームページで確認して、ご家族、学校の先生とも連携を取り合っている。	年間や月間予定が急に変わった時に対応が遅れる事がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		同じ事業所の児童発達支援事業所は密に取れているが、他の事業所や保育園等とは基本的な情報共有のみになっている。	保育園等はほとんど関連できていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		対象者なし。	対象者なし。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		積極的ではないが、案件によって連携を取っている。	現在空き情報等の連絡の他、案件によっては関わりがある。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		他の事業所との交流はなく、地域の人とはあいさつ程度。	機会があれば考えたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		参加していない。	機会があれば参加を考えたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎日の送迎時に保護者と共有している他、時間をとって面談も提案している。	送迎時はゆっくりとお話ができない事がある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ご家族へ支援の仕方のご提案をしたり、研修のご案内をさせていただいている。	児童の特性によって、全員に当てはまる内容が少ないので研修などの通知が偏る事がある。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時、及び変更時にお伝えして、同意書を頂いている。	支援プログラムに関しては、ホームページでお知らせしている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談、課題整理表でのやり取り、送迎時などで確認している。	面談や見学のご希望は随時受け入れているが、実施件数を増やしたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		直接ご説明できない時は、電話やメール、文書などでお伝えして、ご不明な点があればご連絡いただくようお伝えしている。	ご家庭の就労状況により、文書や電話でのお伝えになる事がある。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時にお話させて頂いたり、時間がある時にお電話させて頂くなど、できるだけ迅速に対応している。	送迎時だけでは時間が少ないので、できるだけ面談など時間を取ってお話させて頂ける機会を作っていきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		父母の会はなし。	保護者同士の関りを求めている方もいらっしゃるのでは、検討の余地はある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		責任者以外の職員に伝えられた時でも、すぐに責任者に報告する事を徹底している。	事の大きさにかかわらず、迅速に対応しているが、保護者との連絡がタイミングが合わず遅れる事がある。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページからインスタグラムで様子をお知らせすると共に2か月に一度事業所での様子などのお知らせも配布している。	個人情報保護の観点から、伝え方が難しい事がある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		インスタグラムの写真の掲載は各保護者の方から同意書を頂いている。	どこまでの情報の保護に当たるかが難しい時がある。

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		言葉でのコミュニケーションに不安がある利用者に対しても簡単なジェスチャーや絵カードを使うなど工夫している。	静かな環境を好む利用者に適切な環境を提供する事が難しい時がある。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	同じマンションの住民には気持ちよく挨拶をするように心掛けている。	地域住民とともに行う行事は今はできていないので、参加できそうなものがあれば検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		職員へは研修で周知して、室内の見えるところに常に保存している。	職員へは研修として周知できているが、保護者の方へはすべての内容をお伝えできていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		地震、火災、防犯、交通安全についての訓練は毎年おこなっている。	利用者全員が参加して行う事が難しい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		毎年春にお子様の様子をフェイスシートに記入して頂いて室内の見えるところに常に保存している。	服薬の変更も連絡ノートやお送り時にお聞きしている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		毎年春にお子様の様子をフェイスシートに記入して頂いて室内の見えるところに常に保存している。	医師の指示書は頂いていない方が多い。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		職員全員で毎回想定を変更して研修、訓練を行っている。	実際の起こり得る場面の想定が難しい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全確保に関してのマニュアルを作成して、事業所の目につく所に置いて、ご家族にも訓練や研修内容を書面で配布している。	ご家族への連携方法は確立しているが、もう少し詳しく取組内容の周知ができるように工夫したい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		案件があった場合は、原因を探り、対策を迅速に立てて共有するようにしている。	職員によって「ヒヤリハット」案件の基準が違う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に数回研修を行い社内で委員会を開いている。	どこからが虐待かの認識を職員全体で共有する必要がある。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		年に数回研修を行い社内で委員会を開いている。他害が多い児童に対して瞬間的に抑える事があるが、計画書に記載し保護者にも報告している。	どこからが身体拘束にあたるかの認識も共有する必要がある。	